

【エクアドル経済:2023年2月】

経済指標

(1)カントリーリスク

2月5日に行われた地方選挙及び国民投票の結果を受け、エクアドルのカントリーリスクが1,415ポイントまで上昇し、選挙前に比べ295ポイント増加した。この数字は、中南米地域ではベネズエラの37,891ポイント、アルゼンチンの1,917ポイント、そしてエル・サルバドルの1,418ポイントに次いで中南米地域で4番目の高さとなる。専門家らは、今後ラッソ政権における統治能力や投資誘致能力の低下が懸念されるとしており、JP モルガンは今回の選挙結果を受け、ラッソ大統領が任期を満了できないリスクが高まったとし、非常に厳しい政治的状況に置かれている点指摘した。

(2)2023年投資計画

エレラ運輸公共事業大臣及びアロセメナ経済財務大臣は、公共事業、社会投資、安全保障分野における投資の促進に焦点を当てた「2023年投資プロジェクト」計画を発表した。公共事業においては道路整備に重点が置かれ、ラッソ大統領は10億米ドルの資金調達を目指しており、社会投資については保健、医療、教育を優先に、約150億米ドルの投資が見込まれている。安全保障や治安に関しては警察及び軍隊が予算を策定し、2023年については30億米ドル以上の予算が予定されている。その一部として、2023年及び2024年に1万人、2025年に7,000人の警察官の入隊が見込まれている。

貿易

(1)世界的なインフレの貿易への影響

ウクライナ情勢によって生じた世界的なインフレはエクアドルの輸出にも影響を及ぼしている。2022年は原油輸出が16.5%増加したものの、非伝統的製品の輸出は90億300万米ドル(昨年比+14%)となり、2021年の26%の成長を下回る結果となった。鉱物資源は27億7,500万米ドル(前年比+32%)を記録し、99.2%の伸びをみせた2021年に比べ成長が鈍化した。さらに、生花や植物油、皮革、果物についても同様の減少傾向がみられた。リバデネイラ・エクアドル輸出業者連盟(FEDEXPOR)会長は、これは各国で生じた高いインフレの影響で消費者の購買力が低下したことなどを指摘した。

(2)中国との金貿易

エクアドルの統計によると、2010年にエクアドルは中国に対し7,600万米ドル相当の金を輸出したとされているが、米州機構(OAS)刑事司法部の報告書は、中国側の統計においてその額は3億3,920万米ドルにのぼると指摘している。両国の統計の違いには、エクアドルにおける不正な金の取り引きや違法採掘があるとされている。同報告書によると、2015~2019年にかけてエクアドルの金の輸出量は27.604%成長しており、この伸びはエクアドルより遥かに大きな鉱山業をもつ中南米地域の国々と比べても異常な増加率となっている。2019年にエクアドルはコロンビアとペルーを合わせた約4倍の金を輸出し、その9割以上は中国に送られている。エクアドル国内において不正な金の取り引きが行われている可能性が指摘されている。

(3)ロシアとの貿易

ロシアによるウクライナ侵攻から1年、エクアドル輸出業者連盟（FEDEXPOR）は2022年においてロシアへの輸出額が全体で7%減少したとしているが、主要輸出品目のうちバナナ及びマグロ加工製品は2021年に比べそれぞれ5%と23%の伸びをみせた。他方、その他の品目については、エビ▲13%、生花▲66%、その他水産品▲49%、コーヒー▲26%、果物や野菜▲78%とマイナスを記録した。生花の場合はロシア向けの商品がカザフスタンに輸出されたが、その他の製品についてはロシアに対する各国の制裁により、物流ルートの確保や代金支払いが困難になったため輸出量が大幅に減少した。

(4)EU とのマグロ貿易

エクアドルはEU へのマグロの切り身の主要供給国であるが、EU がアジア市場からの輸入を拡大させる中、主要競争相手の一つである中国からの供給が増加している。2015～2022年にかけ、EU のマグロ市場におけるエクアドルのシェアは32%から26%に低下した一方、中国のシェアは9%から24%にまで成長している。全国漁業会議所（CNP）のアナスタシオ氏は、EU のマグロ輸入は加速度的に増加しており、輸入品全体に占める割合は2%から21.5%まで増加したとしている。急激に需要が伸びる中、中国における漁業は低賃金労働や違法漁業が国際的に問題視されているにも関わらず、低価格の中国産品が大量に輸入されるようになっている。エクアドルは約3年前から違法漁業に対する管理体制を整え、マグロの主要消費国となっているEU との関係で競争力を確保するための対応を進めている。

原油

エネルギー・非再生可能天然資源規制管理庁（ARC）によると、2月の1日あたりの平均原油生産量は48万2,300バレルとなった。1月の原油生産量は1日平均48万9,000万バレルを記録し、2022年12月の47万3,000万バレルを上回る数字となったが、2月は再び減少傾向となった。ペトロエクアドルは2月に一部の油田において抗議活動等による停電が発生し、通常の生産活動に影響が生じたとしており、これらの行為はインフラに深刻な打撃を与えるほか、原油の流出や重大な産業事故につながる可能性があるとして警鐘を鳴らしている。

二国間関係

今年エクアドルは中南米地域で4か国目となる中国との自由貿易協定の締結を目指している。現在両国の貿易額は100億米ドルを超えており、2022年前半には中国がエクアドルの主要な非石油貿易相手国となっている。貿易協定においては対中輸出品の99%が対象となる見込みで、伝統的な輸出品目に加え、ピタハヤやキヌアといった新たな輸出品の拡大が期待されている。本年1月に10か月に及ぶ技術的な交渉が終了し、今後合意された文書の法的審査が進められていく予定。